

どちらが本当の「中弁連」？ 決戦は秋の弁連大会で

2018年度中部弁護士会連合会理事長 池田 桂子(愛知県)

2018年度中国地方弁護士会連合会理事長 下中 奈美(広島)

全国に8つある「弁連」ですが、正式名称はあるものの、略称で親しんでいるのが普通ですね。ざっと見たところ、北から、道弁連、東北弁連、関弁連、中弁連、近弁連、中弁連、四国弁連、九弁連…。あらら、中弁連を名乗っている弁連は二つあります!!

あるとき、中弁連の一つ、中国地方弁護士会連合会では、毎年の弁連大会の懇親会の余興を考えていて、この同じ略称を使っているということをネタにして、名称の使用権原をめぐる、双方の理事長に対決してもらおう、と思いついたのです。これが初めて行われたのが、2015年秋の岡山で行われた正式名称「中国地方弁護士会連合会」が主催した中弁大会でした。

池田桂子中弁連(中部弁連)理事長の聞き込み調査によると、こんな感じです。

○ 2015年秋に松江で開催された中国地方弁護士大会で、当時の中部弁護士会連合会の花井増實理事長が来賓として出席した際、懇親会で、事前の告知なく、余興イベントとして、「玉入れゲーム」-投げた布製の玉を網ですくうゲームを急に申し出られました。3回対決し、花井理事長はゼロ、船木孝和理事長は1個で、中国弁連が勝利し、1年間日弁連等の関係では略称として、「中弁連」を名乗る権利を主張しました。

○ 2016年秋に鳥取で開催された中国地方弁護士大会で、2度目の対決が行われました。ミニ・バスケット状のボードが設営され、シュート5球で競うというゲームでしたが、室木徹亮中部弁連理事長、木村豊中国弁連理事長ともに、1球も入れることができませんでした。サドンデスで、中国弁連がシュートを決め勝利しました。

○ 2017年秋に富山市で行われた中部弁連定期大会で、借り物競争が行われました。携帯電話として、スマートフォンが主流になりつつある時代に、ガラケー(ガラパゴス携帯電話)を駆使する、しかも、若手を探せ、がテーマだったそうです。ガラケーを持っている3人の弁護士を会場で探し、弁護士の登録番号の合計の数字が大きい方が勝ち、というものでした。このときは、青島明生中部弁連理事長が為末和政中国弁連理事長に勝利しました。

○ 2018年秋、山口県下関市で開催された中国地

方弁連士大会では、下関にまつわるご当地クイズでしたが、池田桂子中部弁連理事長が下中奈美中国弁連理事長に勝利しました。

池田理事長の感想としては、「開催地は参加理事長にとっては、アウェイのこともあり、ホームグラウンドのこともあるが、当日まで何も知らされず臨むため、ちょっとした緊張感・高揚感溢れるイベントとなっている。弁連同士の交流が深まっている証でもある。」とのことでした。

こんな感じで、4回にわたって、中弁連対決が続けられてきました。中国弁連理事長下中としては、2018年秋の対決は、誠に残念至極でした。ご当地クイズということで、いやしくも中国地方の本拠地での敗北は情けなく、「なんで、あんな凡ミスしたの?」等と酷評しきりです。下中が間違えた問題は、高杉晋作が作った長州藩の戦闘部隊の名前に関するもので、池田理事長は、正解の「奇兵隊」、下中は「遊撃隊」と回答しました。山口県弁護士会の会長は、白石資朗先生です。この奇兵隊結成に当たり多大な貢献をされた白石正一郎氏のご子孫です。ご当地で駆け回って大会を指揮してこられた白石会長に対しても、本当に面目ないです。奇兵隊は強かった! ようですが、この年の理事長は弱かった…いや~本当にゴメンナサイ。まあ、「おもしろきこともなき世をおもしろく」ということで、ご勘弁よろしく願います。

そして、今までのところ、2対2で、引き分けということになり、中国弁連理事長としては、次年度は、次の弁連理事長に託し、是非とも勝利して、挽回していただきたいと思っています。また、参加者の皆様にもご来賓の方々も、どうぞ、この大会のイベントをお楽しみいただきたく思います。